

# 芸術と教育Ⅲ

## — 幼児保育の環境：造形表現「ゆめのおうち」を通して —

筒井通子

奈良文化女子短期大学

### Art and Education Ⅲ

#### — Modeling Representation 「Dream House」 for Child Care —

Michiko Tsutsui

*Narabunka Women's college*

人格形成の基礎を培う幼児教育は重要なものである。幼児期に周囲の環境とかわり合う中で、生活に必要な能力や態度などを獲得していく。そのような時期の教育にかかわろうとする者を育成するための方策を考えるとともに、幼児の発達に応じた環境からの刺激が得られるような造形表現をする。

その一例として保育者自身が創造力と造ることの喜びや楽しさを持ち、身近な廃材を活かしながら、幼児の発達を考えた造形表現「ゆめのおうち」の制作と活用方法を提示する。

キーワード：芸術と教育、環境教育、造形表現、人格形成、地域との連携

## 1. はじめに

平成20年1月に「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」答申が行われ、この答申を踏まえ、平成20年3月28日に学校教育法施行規則を改正するとともに、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領が公示された。その中で、幼稚園教育要領についての改善の基本方針として示された一つとして、幼稚園教育については、「近年の子どもたちの育ちの変化や社会の変化に対応し、発達や学びの連続性及び幼稚園での生活と家庭などでの生活の連続性を確保し、計画的に環境を構成することを通じて、幼児の健やかな成長を促す。」<sup>1)</sup>とされている。

筆者は、幼稚園教育要領の改訂と時期を同じくして、平成20(2008)年、国際美術教育学会(InSEA世界大会 in 大阪2008)で「小学校教育の中での美術教育の重要性」を述べている。学校経営、算数数学教育、放送視聴覚教育、図工、美術に関して幼児期、学童期、学生期の研究を続ける中で、学習指導要領で重要視されている「生きる力」について何が、根底にあるかをずっと探求してきた。

今、幼児教育者を育成する中で教育者が幼児との信頼関係をしっかり築き、幼児にとって必要な体験ができるような教育的に価値のある環境整備と指導を展開することが必要である。

筆者は、人格形成の一翼を美術教育が担っていると考える。「芸術と教育」(図1)を保育者が「造形表現」で環境を整えて幼児教育の基本にせま一例を紹介する。

## 2. 幼児保育の環境づくり

人は、自然に成長していく力とともに、周囲の環境に対して自分から働きかけようとする力をもっている。その中で生活に必要な能力や態度などを獲得していく。

保育者に教えられたとおりに幼児が覚えていくのではなく、幼児が構成された環境により様々な遊びや活動をしながら、目的を理解するために必要な体験が得られるようにすることが重要である。

そこで、遊びの中で幼児自身に興味や関心を抱かせ、必要感をもたせることを考える。

幼児が意欲をもって積極的に周囲の環境にかかわっていくには、環境がどのように構成されているかが重要である。幼児が興味や関心をもつことによって、意欲的にかかわろうとする。そして、そこに発見があると幼児はより主体的に活動する。そのような環境の基礎には保育者の存在が大きくあり、幼児にとって大切な心の安心感や安定感ができる。

物的環境の工夫を人的環境である保育者がするのである。制作活動をとおして物的環境づくりを進め、一人一人の幼児にどのようにねらいをもってどのような体験が必要かを考え、その活動内容を環境として設定していく方策を考えた。幼児の主体的な活動を通しての発達には、保育者が幼児の周りにある様々な教育的価値を考えながら環境を構成することによって促される。保育者の支援も重要である。

## 3. 環境づくり「ゆめのおうち」

### 3.1 保育者の共同制作「廃材を利用して」

環境を考えるに当たって、遊具や用具、素材など物的環境をどうするかは大切なポイントである。しかし、幼児の活動に影響を与えている環境の要素は物だけではない。その場にいる友達、自然・社会事



図1「芸術と教育」とは  
書道、絵画、造形表現「新聞紙で制作した犬」を活用して教育をする。

象や空間的条件等がある。その中でも人的環境（保育者、指導者、支援者）が大きな影響を与える。

今回は、研究の一例として、保育者が廃材を利用して幼児の主体的な活動を促せるような場の設定を試みる。その場の雰囲気は幼児の主体的活動や体験の質に影響を与えていることを保育者が体感する（図2）。



図2 廃材「ダンボール」の「ゆめのおうち」で遊ぶ幼児

### 3.2 ダンボールの「ゆめのおうち」

幼児がその活動に興味や関心をもち、意欲的に体を動かしているときは、自然と笑顔になり、生き生きとした活動がみられる。活動意欲を満たせる体験を積み重ねることが、身体の調和的な発達のために欠かせない。日常生活の中で、また、絵本の読み聞かせやメディア等の環境から幼児は童話の世界や未知の世界（宇宙・海底）等に自然と興味をもっている。そこで、そのような幼児が活動してみたいと思えるような意欲を喚起し、取り組んで楽しかったという充実感や満足感が味わえるような環境の構成を考えた。

廃材であるダンボールを、幼児が興味をもって活動できるような「家」にする

のである（図3）。幼児の体がすっぽり入り、中で自由に活動できる「家」にするのである。幼児は箱等に入りたいという興味がある。その心理をいかした「ゆめのおうち」である。

本学の「子ども学ゼミ」（筆者の幼児保育の環境づくり）で幼児教育に携わろうとする学生と研究し、4つのテーマをもとに制作をした。



図3 廃材「ダンボール」での制作  
（幼児が入ることができる大きさ）

#### 3.2.1 「うみのいえ」

海中、海底を表現し、ペットボトルを利用して中にとろみのある液体を入れ、銀紙や色つきのアルミ片、ビー玉等を入れ自由な遊びができるように工夫をしている（図4 図5）。



図4 「うみのいえ」の中  
幼児が自由に中で活動ができる。



図5 「うみのいえ」の外観

### 3. 2. 2 「もりのいえ」

童話の世界をイメージし、色画用紙を手でちぎり、外観を作っている。また、光が差し込むように屋根になる部分を切り抜き、半透明のビニルを貼っている。中にはキノコや小鳥、花や蝶を飾り、キャラクターのかくれんぼ等、想像力が豊かになるように工夫している（図6 図7）。



図6 「もりのいえ」の外観



図7 「もりのいえ」の中  
光が差し込んで造形物に触れることができる。



### 3. 2. 3 「うちゅうのいえ」

「うちゅうのいえ」の中の背景である銀河をクレパスや絵の具で色付けし、ペットボトルや布を利用して宇宙旅行をイメージして制作している。中には、布で作ったキャラクターがペットボトルの宇宙船に乗っている。幼児が自由に出し入れできるようになっている。(図8 図9)



図8 「うちゅうのいえ」の外観



図9 「うちゅうのいえ」の中  
自由にキャラクターを動かせる。  
星座にも関心がもてる。

### 3. 2. 4 「おかしのいえ」

童話にもよく出てくる「おかしのいえ」である。多くのお菓子を取り入れてそれぞれがクイズ形式で楽しめるようにしている。文字はひらがなで書いているが、まだ未習であるのでゼミ生が幼児に話しかける。壁面は、形の学習につながるように工夫している(図10 図11)。



図10 「おかしのいえ」の外観

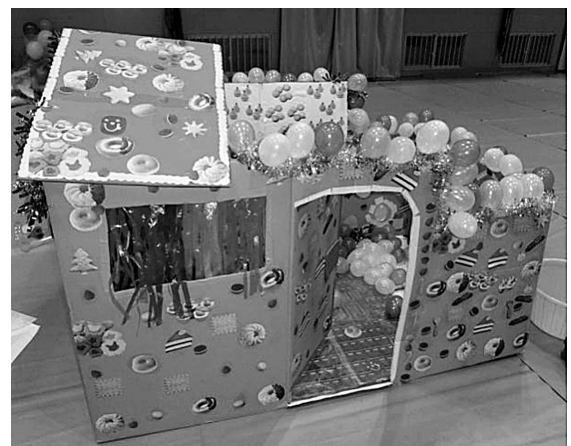


図11 「おかしのいえ」の中  
カップで作った電話で外と中で  
話すこともできる。

これらの制作物で、幼児の興味や関心が広がり、多様な活動をするようになる。ここから幼児が自分たちで工夫しながら遊ぶことへとつなげる。これらの制作物を次記の地域との連携につなげる。

## 4. 地域との連携

制作物を本学の「奈良文化女子短期大学フェスティバル」で、「幼児保育の環境づくり」として地域の幼児を中心とした方々に発表をした。日頃の学生の教育研究活動や学習成果を広く地域の方々に向けての発表である。また、制作物を「ちびっこ広場」（本学は、地域貢献として、0歳から4歳未満の子育て中の保護者が集う場所として本学アリーナ（体育館）のエクササイズルームを開放し、子育て仲間づくりを応援している。）で、ゼミ生が造形表現の場として制作物の活用を音楽を交えて地域の子どもたちと遊ぶ等、した。



図12 「ちびっこ広場」でのゼミ生

これらのことが、幼児教育にかかわろうとする者を育成するために重要な体験となる。その場で乳幼児の反応や、実際の活動にどのように役だったかを知ることができる。そして、乳幼児の発達に応じた環境からの刺激が得られるような造形表現をすることが可能となる。また、保護者や地域の方々と直接に触れあうことも、体験学習となる（図12）。

## 5. おわりに

「芸術と教育」を関連させて教育することの意義を筆者は長年、研究してきた。芸術を通じて、今は造形物を使って教育することは、年齢の開きがあっても心を通わせることができる。また、感動も大きい。保育所、幼稚園、子ども園等から地域への発信があり、様々な理解をされることが望まれている。

好奇心や探究心の旺盛な乳幼児期に、自然や身近な環境の中で、身体感覚を養うことが大切である。その身近な環境を幼児教育の場で可能な限り、設定する必要がある。現代社会の中で悲しいことや苦しい時が多々ある。そのような時、強く生きる精神力、共に力を合わせることでできる人格、「夢や希望」を持ち続けること等が必要になってくる。

造形表現を通しての一例であるが、その中に興味や関心意欲の喚起、思考力や認識力、問題解決能力の基礎を培うことは、子どものその後の生活や学び、生涯にわたって必要な生きる力が養われる。

芸術の中の造形表現をとおしてゼミ生と取り組んだ環境教育の一例であったが（図13）、保育者としての資質も養われる。実践した一



図13 幼児保育の環境づくり筒井ゼミの学生たち

一つの結果として自分自身がより豊かになるのである。

## 謝辞

本研究で使用した写真は保護者の了解を得ましたが、ご協力いただいた方々に心よりお礼を申し上げます。また、時間を惜しむことなく、「ゆめのおうち」の制作に関わったゼミ生に感謝します。

## 引用文献

- 1) 文部科学省 (2008) 幼稚園教育要領解説 : 2

## 参考文献

- 1) 筒井通子 (2012) 「芸術と教育Ⅱ」奈良文化女子短期大学紀要 第43号 : 87-95
- 2) 筒井通子 (2011) 「芸術と教育」奈良文化女子短期大学紀要 第42号 : 67-78
- 3) 筒井通子 (2008) 国際美術教育学会誌2008 「小学校教育の中での美術教育の重要性について」 7pp  
インターネット <http://www.insea.org>
- 4) 文部科学省 (2008) 中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導
- 5) 厚生労働省 (2008) 保育所指針解説書

